

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2974800043
法人名	増春建設株式会社
事業所名	グループホーム増春「悠久の里」
所在地	〒639-0272 奈良県葛城市新在家393-3 (電話) 0745-48-0132

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(平成 20 年 2 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約41,000 円	その他の経費(月額)	約41,200 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(2 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	3 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	気象会東朋香芝病院・山本医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季を肌で感じる事が出来る二上山の麓にある「ふる里公園」の入り口に面し、向かいには道の駅もある環境豊かな位置にホームはあります。建設業を営む事業主が建てたにふさわしく、ゆとりを持たせ、落ち着きとやさしさを感じさせる造りとなっています。設立当初から地域密着型のサービスにも心掛けており、地域との交流も積極的で、市との関わりも密でありサービスの向上に活かされています。管理者、職員は何でも話し合いながら利用者本位に努めており、月に一度の全職員参加の会議でも、意見や気付きを出し合い、同じ意識を持って、質の高いケアがなされています。また、家族との連携も密であり、利用者の穏やかさにもつながっています。利用者は日常的な散歩やドライブ、ホーム内での楽しみ事、役割を通して思い思いに過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題点については職員会議や運営推進会議でも報告され、検討されています。具体的な課題であった、洗剤等の取り扱いや、利用者が見えやすい位置に時計を付けた点や職員のストレス解消策として食事会の検討等職員と話し合いながら取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は会議において管理者が評価の意義や目的を説明し、職員全員が意見を出し合って作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度、利用者・老人会・自治会・主治医・歯科医・民生委員・市担当者・近隣の方・参加出来る職員全員など様々な方が参加されています。会議ではホームの意義や取り組みについて話し合われる他、情報収集や活発な意見交換、市担当者による介護保険の仕組みについての講習会の実施もされ、今後は専門家による認知症についての講習会も予定しています。また、家族会も兼ねての会議も行われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年5月に開催される家族会において家族の率直な意見や苦情を聞き話し合っています。また家族がホームに来られる際に個別に意見を聞いて、問題があれば、毎月の職員会議で話し合い、結果を家族に報告しています。玄関先に目安箱を設置したり第三者機関を通じて家族の意見・苦情を反映させるよう取り組んでいます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設時より地域に根ざした取り組みをしており、法人代表の思いが書かれた季刊誌を定期的に発行し、道の駅に掲示しています。地域の自治会に入会し、回覧板も回って来ています。秋祭り・どんと・花火大会、美化活動など積極的に地域の行事にも参加しています。また野菜や豆腐等、近隣の人が届けてくれたり、立ち寄りたりしてくれていて、本来の地域密着型の関係を築き上げています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の思いである「ご利用者が精神的に安定して健康で明るい生活を営む事ができるよう地域・家族・従業員が共に支援する」理念をホーム設立当初より掲げ、地域にも密着した支援を意識して活動している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰にでもわかるように毛筆で書かれた理念を玄関先に掲示している。また、職員は理念が書かれたカードを携帯しており、日々の朝礼や申し送り、月1回開催されている会議において理念を基に話し合いをし、実践に取り組まれている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板が回ってくる。秋祭り・どんど・花火大会等地域の行事や美化運動に参加したり、近くのお店の利用や地域ボランティアの受入れを通して、積極的に交流し地域に根ざした取り組みを行っている。幼稚園・保育所児童との交流についても現在相談中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については会議の中で職員全員が協議して作成されている。また前回の課題である職員のストレス解消については、慰安を兼ねた食事会の開催に向けて検討中であり、時計を入居者の目線に合わせる事や洗剤等の取り扱いについて職員で話し合いながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、利用者・老人会・自治会・主治医・歯科医・民生委員・市担当者・近隣の方・職員など毎回様々な方々が集う運営推進会議では、ホームの意義や取り組み、行事について話し合われる他、情報収集や活発な意見交換、市担当者による介護保険の仕組みについての講習会の実施もされ、今後は専門家による認知症についての講習会も予定している。また家族会を兼ねての会議も開催されている。議事録はホーム内に閲覧用を設置している。	○	家族会を兼ねて会議を実施する取り組みがなされているが、毎回の運営推進会議にて家族の参加を呼びかける働きかけが今後期待される。

グループホーム増春 悠久の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	お互いが行き来するなかで市担当者と馴染みの関係を築き上げられており、日常的に相談し合いながら密な連携がとられている。また市教育委員会担当者を紹介してもらい、幼稚園・保育所児童との交流も検討してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は頻回にホームに来られており、その際や電話にて報告をしている。また毎月全員のケース会議を開き、会議後個別の手書きの「便り」を郵送し、カンファレンスの内容や季刊誌として写真入りの楽園も定期的に配付している。金銭管理については毎月個々の出納帳にて報告し、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年5月に家族会を開催し、不満、苦情等を含め、率直な意見を聞く機会を設けている。少ない方でも2週間に一度は家族が来訪されるので、その際に意見を聞いている。また玄関先に目安箱を設けたり、第三者機関の窓口も明確にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	話し合いを多く持ち、職員の意見も多く取り入れることで離職を防いでいる。また新任職員については、入居者、家族への信頼関係を築くためにも、日勤帯で馴染んでもらっている。夜勤は必ず2人体制で対応して利用者の安心と職員の負担軽減に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年認知症実践者研修に職員1名が参加しており、受講後はレジュメを回覧し、会議で伝達講習を行っている。また、外部研修の機会は少ないが、内部の勉強会を充実させており、毎月看護師であるケアマネジャーによる勉強会を実施している。	○	今後、同業者の交流を利用して、他ホームへの見学や交換研修を行うなど、外部研修の充実を図る事が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県のグループホーム連絡会に参加しているが会の設立間もない為、研修や交流会への参加は今後の課題である。また知り合いを介して他のホームと交流している。ドライブなど近くに来たときは立ち寄ってもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず利用者に見学をしてもらっている。その際他の利用者や職員と交流することでホームの雰囲気を感じてもらっている。帰宅願望の強い利用者に対しては、家族の協力を得たり、職員が家族の役割をして言葉の対応等を工夫し徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	奈良の伝統である茶粥の作り方や菜園での野菜作りを教わったり、料理の味付けをみってもらうなど、日々助けてもらうことも多く、共に支えあい生活している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりにおいて利用者や家族と話し合う中で意向等の把握に努めている。日々の申し送りや毎月のケース会議でも本人本位について話合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が来られた際に相談し、意見を聞いており、月に一度、利用者全員のケース会議を職員全員が参加して行うことで、職員の意見も反映された介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に一度新たな計画を作成しているが状態に変化が見られる場合はその都度、職員、家族等と相談し見直しを行っている。また、毎月利用者全員のケース会議を職員全員で行い、実情に応じたケアにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や訪問看護等との連携を活かし、利用者の負担となる受診や入院の回避に努めている。また要望に応じて通院の同行や美容院の送迎、お墓参りなどの個別外出の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医を聞いている。月2回協力医療機関の医師による往診、月1回歯科医の検診・口腔ケアの指導、週一回の訪問看護等、協力医療機関との連携がとれている。他のかかりつけ医の場合は、通院への同行、電話や書面で報告、家族と協力しながら連携がとれるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を入居時に説明している。現在はまだお元気な入居者が多く、ターミナルについての希望を聞いて、医師、看護師、職員で話し合い、準備をしている段階である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけをするよう心がけている。職員は利用者に合わせて、待つタイミングを大切にしている。個人情報については事務所の鍵の掛かる書庫で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてにおいて利用者本位でその人のその日の調子に合わせてケアを心がけている。食事時間や起床についても本人の希望に添っており、その日の服装も利用者を選んでもらっている。またレクリエーションもその日にしたい事をして過ごしてもらっている。		

グループホーム増春 悠久の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、おしぼりたたみ、料理の味付け等利用者と一緒にやっている。当番制で食器洗いを手伝ってもらっている。月に一度は食材の買い物に行ったり、外出時を利用して3ヶ月に一度程度外食も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けや張り紙等で工夫しながら、週3回以上は入浴してもらえるよう支援している。夜の入浴希望があれば応じている。また寒い時期は就寝前に足浴してもらうことで安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での野菜づくりや鉢植えの水遣り、俳句を季刊誌で紹介したり、雑巾縫いなどの裁縫や、ぬり絵、ドリル、そろばん、カラオケ等趣味や生活歴を活かした支援を行っている。また洗濯干し、洗濯たたみ、食事の用意・片付け等家事の手伝いなど役割を持ってもらう支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期はホーム横の公園や利用者の希望により近くにある戦没者の墓参りに行ったり、毎日散歩に出かけている。すぐ前の喫茶店や買い物、ドライブには頻繁に出かけている。職員は出来るだけ多く外出の機会が持てるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前は公園入り口の遊歩道になっており、週末・観光シーズンには多くの人が行き交う為、外からの不審者を防ぐ目的で家族の同意を得て鍵をかけている。利用者が外出したいときには一緒に出掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署立会いの下、避難訓練を実施している。これまではすべて昼間を想定して行われているので、今年度は夜間を想定して訓練をする予定である。また、近隣への声掛け、働きかけもやっている。	○	運営推進会議で協力を呼びかけ、地域の方々の参加、協力を得ながら避難訓練を実施する事が今後期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事が提供されており、利用者に応じて刻み等にも対応している。毎食後、食事・水分摂取量をチェックし、ケース記録している。また水分量は1日1200ccを目安に声掛けをして摂取してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした空間でリビングが1階にも2階にもあり、ソファが置かれた寛げる畳スペースもあり、キッチンも対面になっている。日光浴の出来るウッドデッキや庭にある菜園では野菜や花を利用者とともに栽培している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、冷蔵庫、家具、家族の写真、仏壇等自宅から馴染みの物や大切な物を持って来てもらっている。また、畳の居室もあり、家族と相談しながら、利用者が居心地よく暮らせるような支援をしている。		